

研究主題「社会的事象の見方・考え方を働かせて、社会に見られる課題を 自分たちの地域や生活に結び付けて考える社会科指導の工夫 — 中学年児童が図で考えるための手だての工夫と教師の発問計画 —

東京都教職員研修センター研修部教育経営課
稲城市立長峰小学校 主幹教諭 前田 仁美

第1 研究のねらい

小学校学習指導要領解説社会編（平成29年7月）には、「深い学びの鍵として『見方・考え方』を働かせることが重要になる」と示されている。さらに、社会科の目標には、「社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力を養う」とある。これからの変化の激しい社会を生きていくにあたり、社会的事象の見方・考え方を働かせて、社会に見られる課題に対してしっかり向き合うためにも、思考力、判断力、表現力等を豊かなものにすることが必要であると考え。

平成31年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都教育委員会）報告書では、思考力、判断力、表現力等に関する問題の平均正答率が低い傾向にあると分析されており、学習したことを基に自ら課題に気づき、その解決に向けて考えたり、表現したりすることが課題として示されている。

しかし、上記調査の質問項目では、約9割の児童が自分の住む地域や社会をよくしたいと回答している。このことから、自分たちの住む地域や生活をよくしたいという気持ちを大切にしながら、社会に見られる課題の解決に向けて考える力を育成することが必要であると考え。

そこで、本研究では、社会的事象の事実を整理し、全体的な特徴や要点を捉え考察したり、構想したりするための図で考える手だての工夫と、児童が追究する視点を持ち、社会的事象についてより深く考えることができる発問の工夫を行っていく。このことを通して、自分と地域社会との関わり方について考える児童の育成につなげていくことを研究のねらいとした。

第2 研究仮説

身近な社会的事象について図で整理したり、考えたりする工夫とともに、教師が意図的な発問の工夫を行えば、児童は社会的事象の見方・考え方を働かせて、社会に見られる課題を自分たちの地域や生活に結び付けて考えることができるだろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

小学校学習指導要領解説社会編（平成29年7月）を基に、社会的事象の見方・考え方を働かせる姿を、「社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする姿」と定義した。また、考えたことや選択・判断したことを説明する力や議論する力を養うために、図表などに表す力の育成が求められることから、社会的事象を捉える際に図で表し考える指導が必要であると捉えた。

先行研究からは、教師が単元全体を見通して「社会的事象の見方・考え方」を意識することや、話し合い活動の充実を図るために思考ツール等の活用が効果的であることを把握した。

2 調査研究

令和3年7月に、都内公立小学校4校において社会科を指導した経験のある教員を対象に、

「社会的事象の見方・考え方」、「図表などに表現すること」、「地域や生活に結び付けて考えること」に関する指導についての意識を明らかにするため、質問紙による調査を実施した。

調査結果では、「社会的事象の見方・考え方を働かせるための発問で、困ったり、難しいと感じたりすることがある」と回答した教員の割合が高いことが分かった。(図1)その理由として、考える視点の不明確さや発問の表現の仕方の難しさが挙げられた。図表などに表現する指導については、63%の教員が授業に取り入れていることが分かった。しかし、そのように回答した教員の中にも、「指導の際に視点が明確になっていない、共有が難しい」などの記述が見られた。

また、「児童が社会に見られる課題を自分たちの地域や生活に結び付けて考えることができています」と回答した教員の中には、児童にとって身近な教材を活用することや自分たちの地域や生活に結び付けて考える場面を意図的に設定していることが分かった。

この結果から、教師が意図的な発問を行うことによって、児童が追究の視点や方法をもち、社会的事象を地域や生活に結び付けながら考えることと、児童が調べた情報を図に整理し、友達に考えを伝えたり、自分の考えを深めたりすることが必要であると考えた。

3 開発研究

(1) 児童が図で整理したり、考えたりするための手だての工夫

児童が学習において追究の視点や方法を明確にもち、解決に向けて考察したり、構想したりできる「図で考えるシート」を開発した。「図で考えるシート」は、「調べ学習シート」、「話し合い活動シート」、「学習のまとめシート」の三種類からなり、学習内容や学習活動に応じて適したシートを児童が活用することで学習のねらいを達成していく。

児童は、「人、物、事、生活・地域、考え・疑問」の追究の視点ごとに調べた情報をシートに整理する。そのことで、児童は追究の視点や方法を明確にもち、調べた情報や自分の考えをまとめることで全体的な特徴や要点を捉えることができる。さらに、一人1台端末を活用することで友達の見解を即座に知り、考えの視点を共有しながら話し合いを行い、課題の解決に向けてより深く考察することができると考えた。

(2) 社会的事象の見方・考え方を働かせて考えるための教師の発問の工夫

児童が社会的事象の見方・考え方を働かせて考えるための「教師の発問計画シート」を開発した。(表1)この「教師の発問計画シート」を活用することにより、教師は単元全体の見通しをもって指導できると考えた。

授業では、教師の二つの発問によって、児童が社会的事象の見方・考え方を働かせて、地域社会との関わり方について考えることができるようにした。二つの発問とは、「発問①社会的事象の事実を把握し考えること」と「発問②地域や生活に結び付けて考察したり、構想したりすること」である。まず、発問①によって、児童は社会的事象の見方・考え方を働かせて課題を追究し、調べた情報を図にまとめて社会的事象の事実を把握することができる。次に、発問②によって、社会的事象の事実を生活や地域に結び付けて考える学習場面を設定することで、児童は自分と地域社会との関わり方を意識することができるようになると考えた。

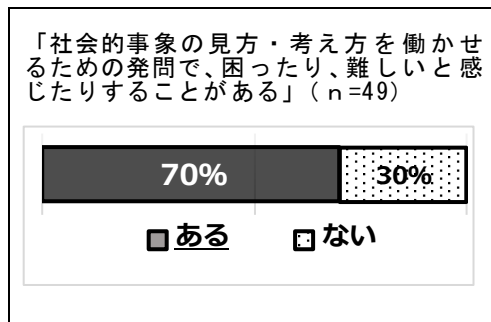


図1 発問に関する意識調査

表1 「教師の発問計画シート」(一部抜粋)

	ねらい	見方	考え方	発問①	見方	考え方	発問②
課題追究	第5時 火災時の 関係機関 の働きと 連携	位置・空間 時期・時間 <u>相互関係</u>	比較・分類 <u>総合</u> 地域の人々 や国民生活の 関連	119番通報す ると、どこに連 絡がいくのだ ろう。	位置・空間 時期・時間 <u>相互関係</u>	比較・分類 総合 <u>地域の人々 や国民生活の 関連</u>	このような協力 がなかったら、私 たちの生活はど うなるだろう。
課題解決	第9時 学習問題 の解決	位置・空間 時期・時間 <u>相互関係</u>	比較・分類 <u>総合</u> 地域の人々 や国民生活の 関連	今まで学習し たことをまと め、学習問題を 解決しよう。	位置・空間 時期・時間 <u>相互関係</u>	比較・分類 総合 <u>地域の人々 や国民生活の 関連</u>	もし関係機関の 協力や地域の活 動がなかったら、 私たちの生活は どうなるだろう。

4 検証授業

都内公立小学校、第3学年社会科「火事からくらしを守る」(全11時間)において検証授業を実施した。検証授業では、「図で考えるシート」の活用と教師の発問の工夫を行い、自分と地域社会との関わり方について考え、表現できるようにした。

(1) 社会的事象の見方・考え方を働かせて、社会に見られる課題を把握する学習活動

児童の振り返りの記述を基に、社会的事象の見方・考え方を働かせて考えることについて分析を行った。第5時の「発問①社会的事象の事実を把握し考えること」では、児童全員が追究の視点や方法を明確にもち、消火活動に必要な機関に着目して、調べ学習を進めたことが「図で考えるシート」の記述から確認することができた。

また、調べた情報を整理していく中で「なぜその機関に連絡されるのか」、「どのように連絡されるのか」など、児童自らが問いを立てて追究し、調べた情報や考えたことをシートに追加する姿が見られた。児童の振り返りの記述からは、全体的な特徴を踏まえ消火活動では多くの機関の協力が必要であるという相互関係を捉えて考えていることが分かった。(表2)

表2 抽出児童の記述内容(第5時)

児童の振り返り	児童A	119番通報をすると消防署だけでなく、通信指令室から <u>いろいろな場所に伝わる</u> ことがすごいと思いました。なぜなら <u>いろいろな人と1秒でも早く火を消す</u> ことができるからです。
	児童B	119番通報をすると、すぐに <u>七つの場所から</u> 火事が起きた所に出動するなんて驚きました。 <u>火事が救急かで消防署が分けていて</u> すごいと思いました。この勉強をして、この地域は安全だと思いました。
	児童C	この勉強をして、 <u>消防署の人だけでは火を消せない</u> ので、 <u>水道局等の人が協力</u> しないといけないことが分かりました。

※下線は、調べた情報の全体的な特徴や要点を捉えることができた記述

(2) 自分たちの住む地域や生活との結び付きを考える学習活動

第9時では、児童は「図で考えるシート」を活用して調べた情報をまとめることで、関係機関の協力によって自分たちの地域や生活が守られていることを把握することができた。その上で、「発問②地域や生活に結び付けて考察したり、構想したりすること」として、「もし関係機関の協力や地域の活動がなかったら、私たちの生活はどうなるだろう」と教師が問い掛けたところ、「火事が起きててもすぐに消火活動ができなくて、死者が増える」、「火事が広がる」、「協力があるから、自分の住む地域は安全だ」など、調べた情報を根拠にした発言が多く見られた。

児童の振り返りの記述を基に、自分たちの住む地域や生活との結び付きについて考えることができたかを分析した。(表3) 児童Aは、社会的事象の事実を捉え、防火への備えについて考

えることができた。また、児童Bや児童Cには、調べた情報を基に自分の生活や地域と消防活動との関わりについて関連付け、地域の防火のためにできることを行っていきたいと考える記述が見られた。さらに、検証授業の全時間を通して、自分たちの住む地域や生活との結び付きについて考えた記述ができるようになった児童の割合が徐々に増加した。

表3 抽出児童の記述内容（第9時）

児童の振り返り	児童A	火事が起きたときに地域の人々が、たくさんの協力をするから火事による死者数が0人なのだと思った。 <u>消防士は多くの命を守るため日々訓練や備えをしているので、私も防火の備えをしていきたい。</u>
	児童B	火事が起きたとき、消防署や消防団、警察署や水道局などたくさんの人が働き消防活動を行っていて、大変なことが分かった。たくさんの人が関わるから、 <u>自分も火事を起こさないように頑張りたい。</u>
	児童C	いろいろな人が火事から地域を守っていることが分かった。 <u>他の人が火事から暮らしを守ってくれているから、私もできることはやりたい。</u>

※下線は、社会との関わりについて考えた記述

(3) 「図で考えるシート」を活用して、社会への関わり方を選択・判断する学習活動

地域の防火のために自分ができることを考える学習において、全児童が選択・判断したことを「図で考えるシート」に表現し、意見交流を行った。児童は、自分の考えを伝えたり、説明したりしたことで自分と友達との考えの相違点を知ることができた。そのことで課題解決に向けて「家の周りの整理をする」、「通報の練習をしたい」など地域社会の一員として自分たちも協力できることを考えたり、自分自身の安全を守るために日頃から心掛けるべきことを選択・判断したりした振り返りの記述が見られた。（表4）

表4 抽出児童の記述内容（第10時）

児童の振り返り	児童A	友達と話をして家の周りの整理をしているのは同じだったけれど、 <u>火事を意識して友達はしていたから</u> なるほどと思った。 <u>家の周りの整理を続けることが大切だ。</u>
	児童B	友達と話をして、やっぱりみんな火遊びは絶対にしないと言っていた。ぼくは、地域の人に日頃から挨拶をすることで、いざというときに助け合えることにつながるからすごいなと思った。 <u>火事を起こさないようにできることからしていきたい。</u>
	児童C	いざというときにいろいろなことができれば、地域の火事も減るし命も救うことができるから、 <u>自分も（通報などを）練習して命を助けたい。</u>

※下線は、社会の一員として自分たちにも協力できることを考えたり、選択・判断したりした記述

第4 研究の成果

- ・ 追究の視点をもって調べた情報を整理し、全体的な特徴や要点を捉え、課題解決に向けて考察したり、構想したりする児童の姿が見られたことから、「図で考えるシート」の活用が有効であると実践を通して明らかになってきた。
- ・ 社会的事象の事実を把握し考える発問や地域や生活に結び付けて考察したり、構想したりする発問の工夫により、児童が追究の視点や方法をもった上で、課題を追究し具体的事実を根拠に地域や生活に結び付けて考えることができた。

第5 今後の課題

「図で考えるシート」の有効性を他の単元で検証し、汎用性を高める。また、授業実践を通して、児童が社会的事象の見方・考え方を働かせ、身近な社会的事象を自分たちの地域や生活と結び付けて考えることができる発問の工夫を行いやすいように、「教師の発問計画シート」の改善を図る。